

# 第一回学校運営協議会

第一回に関しましては、新型コロナウイルス感染症感染予防の観点からメールでのご意見等を頂き、下記の通り回答することで開催に代えさせていただきます。

## 1. 中期的目標の評価指標について

⇒今年度学校経営計画については公開もされていますので訂正はできません。来年度以降については、いただきましたご指摘を参考にして作成します。

## 2. 学校経営を順調に推進された結果、学校教育自己診断の教職員における肯定的評価の数値が非常に高くなっています。しかし、90%超えが目標となると、評価指標設定の有効性に限界があるのではないかと思います。項目によっては、保護者向け評価を採り入れるなどの工夫も必要ではないでしょうか。

⇒各項目の質問趣旨を検討し、保護者評価の取入れも検討します。

## 3. 中期的目標

1(1)ア 前年度には、「『主体的・対話的で、深い学び』の観点から」と記載がありましたが、本年度は、「本校学校教育目標の観点から」となっています。「及び」を入れて文章をつないで、併記されたほうが、初めて読む方は理解しやすいのではないかと思います。

⇒今年度学校経営計画については公開もされていますので訂正はできません。来年度以降については、いただきましたご指摘を参考にして前年度からの流れも理解できるように作成します。

## 4. 3(1)ア アセスメントチェックリストの「活用推進」(前年度)が、「活用・定着」の言葉に進み、着実な取り組みが感じられます。さらなる推進の年にしてください。

⇒努力させていただきます。

## 5. 5(4) 本年度、新型コロナウイルス感染症への対応・対策についての新設項目を盛り込まれたことは、非常に適切だと思います。

⇒大阪府教育庁からの指示に従い新たに新設しました。

## 6. 本年度の取組内容及び自己評価

1(1)イ 「年間指導計画、個別の指導計画に基づく授業になっているか検討する」評価指標が、自己診断の肯定的評価のみで、十分検討できるでしょうか。具体的な取組計画・内容の項目も併せて、前年度からのつながりがわかるよう、文章を加筆されてはどうか。

⇒今年度学校経営計画については公開もされていますので訂正はできません。来年度以降については、いただきましたご指摘を参考にして作成します。

## 7. 2(2)評価指標 「グループウェアについての研修会を行い、G suite を活用できる教員数を全体の10%以上にする。[新規]」と記載がありますが、府立学校の状況を周知していなければ、何のことか？ なぜ10%以上なのか？ わかりづらいと思います。説明を加えたほうが、理解が促進されるでしょう。

⇒今年度学校経営計画については公開もされていますので訂正はできません。来年度以降については、いただきましたご指摘を参考にしてより具体的な表記となるように工夫します。

## 8. 3(1)エ 研究紀要の発行は、校内の実践報告会をさらに深めて校外へと取り組みを発信する上で非常に重要です。発行に至るプロセスをできるだけ合理化して、目標を達成してください。

⇒努力させていただきます。

## 9. 5(3) 「支援相談依頼のあった内容等を参考に特別支援教育の情報を年5回以上配信する。[5回]」と記載がありますが、前年度◎の項目であったと思います。センター的機能に関わる大切な項目でもあります。もう少し目標回数を増やしても良いのではないかと思います。

⇒努力させていただきます。担当者には回数にこだわらず、必要な情報を随時発信するように指示しています。

10. 5(4) 「新型コロナウイルス感染症への適切な対応・対策体制を確立」における「人権尊重の教育の推進」を具体的にどのように進め、評価するのか、追記が必要ではないかと思いました。  
⇒今年度学校経営計画については公開もされていますので訂正はできません。来年度以降については、いただきましたご指摘を参考にしてより具体的な表記となるように工夫します。
11. 中期的目標・取り組み内容全体を通して、「児童・生徒の実態に応じた・・・」ということが前提にあります。子どもの実態をどのようにつかむかが大切になると思います。アセスメントチェックリストを用いるなど研修を重ねられるとのことですが、一年間で何を目標に、どのように取り組むのか、PDCAサイクルによる実際の取り組みをしていただいた後の成果についてお話をお聞きしたいです。児童にとっての成果、先生方にとっての成果があると思います。  
⇒アセスメントチェックリストを活用したPDCAサイクルによる取り組み成果については、第3回学校運営協議会で報告をさせていただくよう取り組みます。
12. 地域のセンター校として、どのような役割を果たされているか、その実際についてお聞きしたいです。  
⇒地域支援機能の中心を担うL・D（リーディング・スタッフ）から実際の取組みないようについて、第3回学校運営協議会で報告をさせていただくよう取り組みます。
13. 小学部中学部高等部と進級していく過程で、子どもの特性や個性に応じて必要なことが引き継がれてほしいと思います。子どもの実態に応じて、その子なりの自立と社会参加をめざした長期的な姿はどのように保護者と共有されていますか？  
⇒個別の教育支援計画における目標管理を保護者と徹底するために、年度初めに保護者が計画策定に参画することと年度終わりに年間の取組み評価を保護者と共有することをルーチン化しています。
14. グループウェアとHPとは親和性があり、グループウェア活用のためには、HPによる情報発信の部分をグループウェアに取り込むことができるのであれば、そのような方向性でお願いいたします。  
⇒担当者と相談させていただきます。
15. 福祉事業所の一日体験については、見学を1、2ヶ所に絞るのではなく、多くの事業所を見学いただくことで、より福祉事業所の現状の水準を皮膚感覚で知ることができるため、より積極的な呼びかけをお願いいたします。  
⇒今後はもっと積極的に取り組めるように小学部保護者を中心に啓発に努めます。
16. ボッチャは、オリンピック後の活動の維持を想定してほしいです。  
⇒今年度からボッチャ部の取組みを組織的に進めるようにしました。
17. “専門性”については、多くの方が惹かれる傾向がありますが、生徒さんにとって大切なのは生活全般のトータルでの質の向上であり、生活がいわゆる“専門家”が推奨する行為の足し算ではないことを理解したうえで、専門家の意見を聞く必要があると思います。  
⇒いろいろなベクトルが同方向に合体することによるプラスαにより生活の質が向上することを共通認識として持てるように努めます。
18. 時間外勤務については、どのような業務に時間がかかっているのでしょうか。必要な時間外勤務であれば、1ヶ月45時間が単純計算で1日2時間ですので、さほど荷重とは思えません（夜間に泊まることがあれば別ですが）が、労基法上の上限であれば、その基準を守ればよいと思います。おそらく、一生懸命の先生方は自宅でもやられるでしょうから…。  
⇒一概に作業的な業務だけではなく、企画的課題解決的な業務（各種運営方針策定・行事・授業企画・課題解決対応など）に時間が割かれることが多いと思います。
19. スポーツフェスティバルや文化祭において、新型コロナウイルス感染症を考慮し、内容の見直しを図る  
→今年もコロナ禍のためできることは限られてきますが、その中でも出来る方法を考えて頂きたいです。オンラインを活かしたり、参加人数を少人数にして時間を区切るなど工夫をお願い致します。  
⇒様々な制限のある中での実施になり、どうしても児童生徒の活動確保を中心に考えます。そこに保護者への

配慮を加味することは大変難しいと思います。しかしながら、今後の with コロナ社会を考えて、保護者の皆さまにも納得いただける教育活動を検討します。

20. 居住地校交流について保護者アンケートを実施し、肯定的意見 80%以上とする。

→保護者とは居住地校交流を実施した児童生徒の保護者のみとの理解で良いのでしょうか？今年度の実施予定はどれぐらいですか？

→その通りです。

21. 「学びの保障」として、オンライン授業の整備に取り組む

→校内での通信環境、また各家庭での通信環境が均一に整っていないかもしれませんが、昨年同様に全家庭へオンラインの準備ができているかの確認をして頂き、試行を繰り返し行って頂きたいです。先生方も保護者も慣れてくれば、感染状況によって休校になった場合も学校との継続的な繋がりを持てると思います。

→昨年度の財産を有効活用する方向で、より充実した学習環境の確保に努めます。

22. 昨年からのコロナ禍もあり、保護者のホームページへの関心が高くなっています。懇談や参観が中止になり、保護者が学校の様子を見ることが出来ない中、ホームページをもっと活用して、迅速な情報発信を期待しています。

→ホームページの有効活用については大きな課題と認識し取り組みを進めているところです。今後はグループウェアの有効活用についても検討を進めます。

23. 児童生徒の実施に応じた類型制（Ⅰ～Ⅲ）に基づく教育課程を編成し、個別の指導計画に基づく授業を展開

→懇談がないまま6月末。4・5月が課題共有できないまま過ぎてしまった。

→昨年度からの新型コロナウイルス感染症による影響は様々なところに出てきています。今年度も遅くなりましたが、6月末から個人懇談会を実施させていただきました。

24. ICT 機器の有効活用を推進 → 周知してください。

→様々な場面での情報発信に努めます。

25. キャリア教育の観点から企業・事業所や労働関係機関等との連携を図り、個々の児童生徒の社会的自立を推進。→「夏休み一日体験」を低学年から参加できるように啓発したら良いのでは。

→門戸は開放していますが、保護者の皆さんのキャリアに関する意識啓発が不十分なために参加率が低くなっています。キャリア教育に関する情報の発信を積極的に取り組みます。

26. ボッチャを推進し QOL の向上を推進 → ボッチャ部の活動をもっと周知して欲しい。大会等どこでやるか。お知らせして欲しい。応援に行きたい。

→「たより」などを活用して活動啓発を進めます。

27. 自立活動専任による自立活動研修体制の充実 → 4月初めに研修があるのなら、子どもたちを見てから実際に装具のつけ方とかを教えて欲しい。新学期の事故が多い。

→基本事項研修を始業式前に実施し、登校がスタートして同時並行でさまざまな児童生徒対応を進めています。事故については、初心者に限りません。新学期のあわただしい雰囲気に飲み込まれることなく冷静に児童生徒対応に当たるように指導を徹底します。

28. 居住地校交流の意義等を保護者にもっと周知させて欲しい。なぜ必要なのか。地域とのつながりの大切さ等。

→「たより」などを活用して啓発に努めます。

29. 交流及び共同学習について → 行くばかりの交流でなく、手紙・ビデオ・作品を届ける等。

→内容の充実について相手校との検討を深めます。